

## 頑張れ、日本のBM工業



帝京平成大学名誉教授  
国際フェライト委員会委員長 杉本光男

いま日本の電子材料工業は、中国の急速な追い上げに苦境に追い込まれています。日本が最も得意とし、また最もその将来の発展が囑望されていたわが国のエレクトロニクス産業の足許に、火が点いたのですから大変なことです。韓国も中国も、嘗て日本が歩んだとおりの道を辿りながら、鉄鋼、造船、エレクトロニクスと順々に日本に迫り、次は日本の自動車産業を目指しているように思います。

このような厳しい環境の中でも日本のBM工業は比較的元気のように見えます。これは当工業協会の原田会長と多田専務理事を中心として、わが国のBM工業界の方々が一生涯懸命に頑張っているからだと思います。しかし単に頑張っているだけでは何れ近い将来、ますます調子を上げている中国から壊滅的な打撃を受けるかも知れません。私達は、あの半導体のような打撃を二度と繰り返して受けることだけは絶対に避けなければなりません。私はBM関係の仕事に携わって来なかった為に、このような重大な時に、ここでBM関係者に有効にして、かつ適切なアドバイスが出来ないことを大変残念に思います。しかし私は、いまなお日本の電子材料工業の将来に、輝かしい希望を懐くと同時に、フェライト研究の先輩として電子材料関係者をお願いしたいことが沢山あります。ここでは、そのいくつかについて述べたいと思います。

最近の日本人には元気が無いと良く言われます。私は元気が無いと言われる人は、いま何をすべきか考えられないか、或は目標をたてても自信を以って実行出来ない人ではないかと思っています。実力のある人は、今こそ独創的な仕事をして会社に貢献したり、或は独立して新会社を創立する絶好のチャンスと考えていると思います。また長引く経済不況や急速な産業空洞化の影響を受けて平静さを失い、確固たる将来計画を立てられない技術者が居るかも知れません。しかし、私の拙い終戦直後の経験から見ると、現在の日本の産業界の状況は天国のようです。

終戦直後のような全く物も金銭も無い厳しい環境の許でも、確固たる将来ビジョンと強固な信念を懐きながら努力を重ねれば、今日のような繁栄をもたらすことが出来ると

言う良い先例と教訓を私達に与えて下さったのがソニーの井深 大氏であり、松下電器の松下幸之助氏であり、本田技研工業の本田宗一郎氏です。しかし最近の会社の幹部は、リストラや会社合併などを行って生き残りに汲々して居るばかりで、確固たる自信に満ちた将来ビジョンを持っていないように見えます。また政府の政策や円安に頼るばかりの自信の無さも窺われて誠に残念です。

中国も韓国も、日本が得意とする量産方式、日本独自の品質管理や終身雇用に基づく愛社精神と団結力などを良く研究して、既にこれらを取り入れている現時点では、従来のような将来計画を建てても、日本の電子材料工業は勝ち残れないと思います。再生日本を目指した新しく且つ独創的な将来ビジョンを打ち立てる必然性があります。幸いなことに、現在の日本の科学と技術の水準は、世界的な視野でも相当高い所にありますので、いま独創的な将来計画を建て、必死に努力すれば、必ずや追って来る者を大きく引き離すことが出来ます。フェライト開発者の加藤と五郎先生は、「寝食を忘れて精神を集中すれば、必ず途は拓ける、前進あるのみ」を身を以って実践されました。BMの製造工程を改めて詳細に検討し、加藤流に熟慮すれば必ずや、創造的な発明や素晴らしい独創的な技術が生まれると確信しております。是非そのようになることを心から願って居ります。

いかに立派な発明や素晴らしい新技術の情報を入手しても、なかなか工業化出来ないものです。これらを工業化するための特別な知識、豊富な経験、ノウハウなどが更に必要になるからです。特にノウハウは、その会社が長年に亘って培って来た貴重な財産です。ところが最近、このノウハウが安易に外国に売却されたり、迂闊にも情報漏れをしたことを度々耳にします。私はこの貴重なノウハウの取り扱いを、もっと慎重にすべきであると思っています。

最後に、大学の先生にお願いがあります。それは日本の学生にもっとしっかり勉強させて戴きたいのです。今迄は、ともすると勉強不足の学生も卒業させてしまった傾向がありますが、これからはこのようなことを無くして、私達が安心して将来を委ねられる有望な青年を沢山育成して欲しいと思います。